



玉城 そのみ sonomi tamashiro

美術家 / 音と光 | アーティスティック・ディレクター。

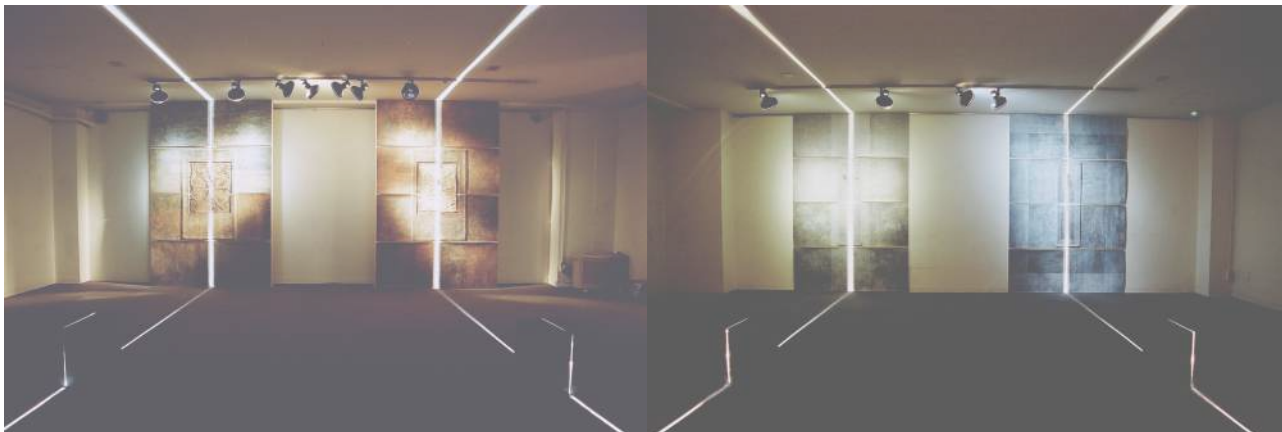
1977年東京生まれ。文化学院美術科在学中より、作品製作のプロセスの心とからだの感覚や意識の変化への関心から、古今東西の哲学や思想史にも関心を持ち、舞踊や各種身体訓練を通じて身心の全体性について考え始める。

卒業後、同校助手を務めながら絵画作品の製作や国内外でのインスタレーション・パフォーマンス、山口小夜子(ファッションモデル)のパフォーマンスのアシスタントなど、領域にとらわれない活動を通して身体、空間、美への探究を深め、2011年の震災後からは、育児を通じて持続可能な社会への取り組みや、ホリスティックな身体観への学びを深める。2015年より大田区田園調布にあるアートスペースいずるばでの企画を始める。

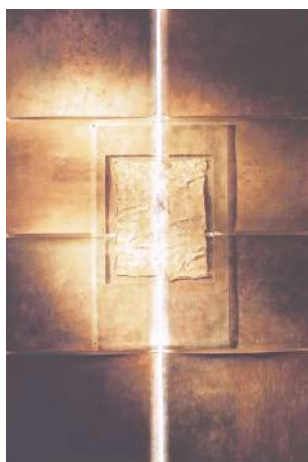
音と光の企画では、音や光のように目には見えないもの、こころとからだかゆたかに拡がるような時間と空間をデザインすることをコンセプトとして活動しています。

works

2001-2002



枯碩 (不毛の砂漠)



沙草 (砂原に生えた草)



蒼茫 (青く果てしない世界)



薄明 (はくめい)

個展

東京・高円寺 2001
Devon, England 2002

霧中孤光 (霧の中の微かな光)

ミクストメディア/紙にアクリル絵の具・ドライフラワー・アクリル板
2010×1580(mm)

卒業後、単身でフランスに渡って、毎日、パリのほとんどすべての地域をひとりで歩きながら、たくさんのことを考えて、帰ってきてから描いた初めての大きな作品です。お声がけをいただいて初めて個展をひらかせて頂きました。

当時は若さゆえの悩みや苦しみがあつて、からだもこわばり、陽の光すらまぶしく感じていましたが、ふとした時に、視線を少しあげたその先の方にみえた素敵なお母さんと小さな女の子の、ふたりのあいだの空気がやわらかく、心地よくて、しばらく眺めているうちに、まるで雪解けのようにわたしの心もやわらかく溶け出して、周りの風景の感じ方が一変したことが思い出されます。そんな、ひとつひとつの出来事が、描く色の粒のなかに、こころの変遷としてよみがえりながら、人が癒えるとはどういうことなのかを模索していました。この頃から、訪れた人が、光ややわらかな空気に包まれることでこころや身体がほどける空間を作る、ということが、当時の私には意識にはのぼらずとも、作品のテーマとモチベーションになっていたように思います。

2003-2004

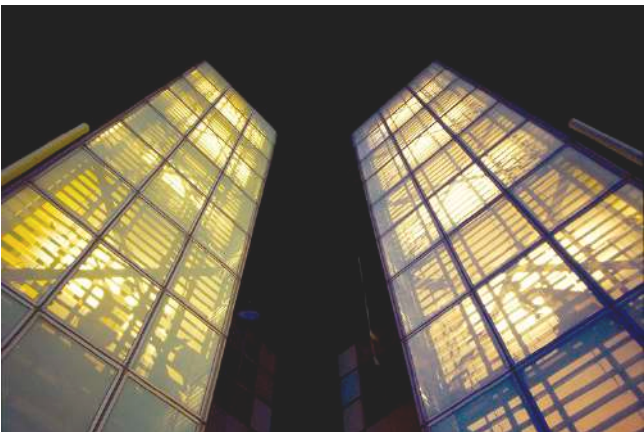
ファッションモデル・山口小夜子のパフォーマンスのアシスタント

(恵比寿ガーデンセッションズ「響命」に小夜子マネキンとして出演等、都内イベントでのアシスタント)

2004 (主な活動)



兵庫県立美術館 インスタレーションパフォーマンス
高橋匡太/ プロジェクション
山中透/ サウンド
パフォーマンス/ 玉城そのみ
テクニカル/ Shin-ya b.



キリンプラザ大阪 インスタレーションパフォーマンス
高橋匡太/ プロジェクション
山中透/ サウンド
シルエット・パフォーマンス/ 玉城そのみ

2005



京都府文化博物館 インスタレーション

高橋匡太/ プロジェクション
シルエット・パフォーマンス/ 玉城そのみ

2006



インスタレーション spacement gallery, Australia

高橋匡太/ プロジェクション
山中 透/ サウンド
シルエット/ 玉城そのみ



インスタレーション・パフォーマンス
タマダプロジェクトアートスペース / 東京

高橋匡太/ プロジェクション
山中 透/ サウンド
シルエット/ 玉城そのみ
映像テクニカル/ shin-ya b.

2009



Calvin Klein (カルヴァン・クライン) Press Show 2009
Temporary Comtemporary / 東京

高橋匡太/ プロジェクション
山中 透/ サウンド
シルエット・パフォーマンス/ 玉城そのみ

2012

出産を機に育児に専念し、2015年より企画室・音と光としてボディワーク・ダンスWS等こころと身体のつながりを探究するクラスやイベント等の企画をはじめ。音と光のページをご参照ください

>> <https://www.sono-lumiere.net>